



6月議会（2022.6.14～6.29）

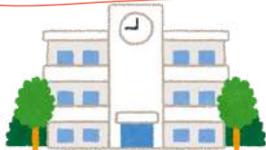


補正予算に新設校の建設調査委託料が計上

2021年12月から少しずつ見えてきた新設小中学校の計画ですが、今回の6月議会では建設予定の土地に関する調査委託料が補正予算に計上されました。

新設小学校

土地鑑定委託料	3,263,000円
学校用地測量設計委託料	38,191,000円
用地補償調査委託料	4,691,000円



新設中学校

土地鑑定委託料	3,263,000円
学校用地測量設計委託料	34,990,000円
用地補償調査委託料	9,030,000円

行政側の説明では、この調査が終わったら、新設校に係る全体の予算が見えてくるとのことでした。調査が終了する目安は2022年12月の予定です。

6月議会の直前には全員協議会も開催され、新設小学校の建設予定候補地が、県の洪水浸水想定区域に含まれると説明がありました。[これは2021（令和3）年7月の水防法改正の施行に伴い、新たに洪水浸水想定区域として加えられたものです。]

新設校を早く建てる必要はありますが、安全面での懸念もあります。この予定地で建設計画が進むのか、また新設学校だけでなく、既存の他の小中学校など公共施設の老朽化が進んでおり、全体的な計画を見ながら進めてほしいところです。

令和4年度低所得の子育て世帯（ひとり親世帯）に対する
子育て世帯生活支援特別給付金

■以下の①～③のいずれかに該当する方

①は申請不要（6月末、支給完了）

① 令和4年4月分の児童扶養手当受給者の方

② 公的年金等を受給していることにより、令和4年4月分の児童扶養手当の支給を受けていない方（「公的年金等」には、遺族年金、障害年金、老齢年金、労災年金、遺族補償などが該当します。）

③ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて家計が急変するなど、収入が児童扶養手当を受給している方と同じ水準となっている方

※ 上記②又は③に該当する場合であっても、ひとり親世帯以外の低所得の子育て世帯対象の子育て世帯生活支援特別給付金の支給を既に受けている場合は、本給付金の支給は受けられません。

②、③に該当する方は申請が必要です。2023（令和5）年2月28日まで（郵送の場合は必着）に市こども課窓口へ申請してください。

6月議会での一般質問

1 学校生活における児童・生徒のマスクの着用について

質問①

・5月20日に厚生労働省から、マスク着用の考え方、および就学前児童の取り扱いについてが公表された。その後、文部科学省でも、夏季を迎えるにあたっての学校生活における児童生徒のマスク着用の留意点を各関係団体に連絡している。国の方針が出た後の、福津市の対応について

市の答弁①

・運動会等の練習が始まり、熱中症のリスクが高まることを考慮し、国の方針が出る前の5月11日に、昨年度通知した熱中症予防を踏まえたマスクの留意点を、改めて各学校に通知。

そのあと5月24日の文部科学省の通知内容があったが、11日に各小中学校に通知したものと重複する内容であったため、各小中学校への再度の通知はしていない。

質問②

・学校現場の現状について

市の答弁②

・小中学校の現場では、原則として、マスクを着用するように指導している。しかし児童生徒の体調や、熱中症のリスクを1番に考えて、運動時や登下校中は感染対策をしたうえで、マスクを外すよう指導をしている

質問③

・例年暑くなるのが早くなるが、通知も早めに出す必要があるのでは

市の答弁③

・季節の変化をしっかりと読んで、必要に応じて徹底することは大事であるが、何よりリスク回避をするための留意事項なので、学校現場の状況確認をしながら徹底していきたい。

質問④

・小中学校に通知したガイドラインには「様々な事情からマスクをできない子、しない子がいることを理解して…」と書かれてあるが、実際は学校によって対応がまちまちだったという保護者からの意見があったが。

市の答弁④

・差別は当然あってはいけないことと認識している。マスクをつける・つけないに対しては、様々な事情があるということをしかりと認識して、学校現場にも伝えて、子ども達一人一人に寄り添っていけるようにと考えている。



イシダの意見

・「息苦しい」や「肌が弱くて」など、様々な理由でマスクを外したいという子もいれば、対人関係でマスクをいまさら外せないと感じる（この場合は中学生以上に多いようです）子もいます。

感染対策をすることは原則としても、どちらに対しても理解することが必要ではないでしょうか。

現在、福岡県の感染者数は増加しています。陽性反応が出た方、濃厚接触者になった方など、私の身近な方々にもいます。中には後遺症で辛い思いをしている方もいらっしゃいます。予防対策をしっかりと取ることを前提に、個々の体調や持病などへの理解も含めて「みんなに優しい社会」になってほしいと願います。

② 窓口サービスについて

地方自治体の行政サービスは、新型コロナウイルス感染症対策やDX（デジタルトランスフォーメーション）によって変化しています。中には、当該手続きの記入用紙をなくしたワンストップ窓口を導入した自治体もあります。

これをふまえて以下の質問をしました。



質問①

- ・窓口業務の現状について



質問②

- ・繁忙期の状況と今後の課題について

質問③

- ・待ち時間の長さが気になったり、他の人の相談の内容が聞こえたりすることも。

本館1階の中庭を改築工事して、1階フロアを広げてみてはどうか。

市の答弁①

・証明書の申請書、異動届出書などは紙を使用しているので市民は来庁するようになっている。保険年金医療課では、郵送での手続きなど、手続きの簡素化を行っているものもあるが、紙の申請書を使用し、対面で確認しながら手続きを進めるものが多く、大半は窓口での手続きとなっている。

市の答弁②

・市役所に来て、職員に尋ねながら手続きを行いたい方、また反対に簡潔に申請書を受け取りたい方、市役所まで行かなくても手続きをしたい方、様々なニーズに対応できるようにすることが、市民サービス向上のための課題だと考える。

手作業で行う作業は効率化を図り、相談業務の方に十分な時間を充てられるよう、職員の業務改善を図ることも課題の1つであると考えている。

市の答弁③

・庁舎の構造的な理由で、すぐに解決することは難しいが、ソフト面で解決できればと思っている。三密防止や待ち時間の短縮になるシステム導入なども今後行う予定。

中庭の改築については、建築基準法をクリアする必要があることと、作業の工事車両が入れない状況なので、なかなか難しいものがあり、苦慮している。

イシダの意見

・福津市役所の1階にいと、相談している方の姿をみかけます。窓口に来た時に、先に相談であると窓口担当者に伝え、別室へ案内されることもあるそうですが、窓口で相談しているうちに声が大きくなって、個人の事情まで聞こえてくることに対して、何らかの改善ができないものかと今回の一般質問にしました。

過去の一般質問でも取り上げましたが、「相談」の中には他人に内容を聞かれないだけでなく、「あの人は、〇〇にいた」と周りの人に知られたくない事情もあるなど、様々な事情から個人を守る「相談体制」への取り組みをしてほしいものです。

窓口での対応をよくするための研修も必要ですが、他の市町村庁舎や病院など、人が集まる場所での受付フロアや対応を見て、いいところは自分の自治体でも取り入れる、という意識を持っておくのもいいのではという事や、仕事に自信を持たせるためには、「まずは**「自分のことを大事に思うこと」**





福津市中央公民館 1階
(旧ボランティアセンター)



福津市では、第一次福津市総合計画（2007年3月策定）や福津市みんなですすめるまちづくり基本条例（2008年9月制定）において、「共働によるまちづくりの必要性」を示し、それを機に地域自治（郷づくり）や学校運営（コミュニティスクール）などにおいて、新たな共働事業をはじめ、複数の事業を継続実施しています。

その後「福津市SDGs未来都市計画（2019年9月策定）～市民共働で推進する幸せのまちづくり～」を実現するための主要事業として「幸せのまちづくりラボ（仮称）」のプロジェクトが誕生しました。

また、福津市ボランティアセンターは、2003年に「ボランティアハウス・ふくま」として開設され、2018年4月、「福津市ボランティアセンター」として福津市中央公民館内に移転しました。ボランティアセンターでは、ボランティア活動に取り組んでみたい人と、活動をしてもらいたい施設・ボランティア団体との橋渡しを行うなど、ボランティアに関するさまざまな相談を受け付けています。

このボランティアセンターと幸せのまちづくりラボ（仮称）がひとつになって「福津市未来共創センター（愛称: キッカケラボ）」となり、2022年7月1日からスタートしました。場所もボランティアセンターと同じ、福津市中央公民館の1階にあります。

キッカケラボは「つなぐ・つくる・ひろげる」の3つの支援を行い、市民共働・公民連携によるまちづくりを進める担い手（新しく担い手となる人材も含む）の取組みを支えています。

地域の皆さんの活動をはじめ、福津市内の人・モノ・コトがお互いに手を取り合って、市民共働・公民連携による人や経済の循環ができる持続可能なまちづくりをめざします。

みなさんの「やりたいこと」を応援します、キッカケラボ

あとがき



第26回参議院選挙が終わりました。社民党は政党要件を満たすことができましたが、残念ながら獲得できた議席は比例区で福島みずほ党首の一議席でした。

今回の選挙では、政策をはじめとする訴えたいことを、どれだけ「わかりやすく」伝えるのが大事だと感じました。これからの活動に活かしていく所存です。

